メンバーズインタビュー

組合員紹介 No.34

(株)ランバーリング・カツマタ

確かな加工技術と地域のネットワークを活用し、住宅から公共施設、木製品など、富士ヒノキの多様なニーズに応える。



高精度な加工を実現する丸鋸製材機

どんな事業をされていますか？

当社は、終戦直後の1947年、富士山麓の国有林で伐採事業にて創業し、同時期に旧富士山麓電気鉄道(現:富士急行(株))が運行する木炭バスの燃料に使用する薪材の製造を開始した。石油流通の再開により、薪需要が減少したことから、1950年に製材業を創業し、建築材、土木材の製造を開始した。事業拡大に伴い、1997年に株式会社化し、2006年に富士市大渕へ工場を移転した。

現在の生産割合は建築材が9割、土木材が1割であり、原木は静岡県森林組合連合会や山梨県南部町森林組合から仕入れ、ヒノキが約9割、スギが約1割である。製品は、ヒノキの正角を主力に製造し、地域の木材流通業者に販売している。



富士山麓を拠点とする工場



小径のヒノキ原木



主力製品の富士ヒノキ正角

事業の特長や強みは何ですか？

丸鋸製材機による高精度の加工技術が強みである。一般的に製材で用いられる帯鋸とは異なり、丸鋸を用いることで寸法精度が高く、滑らかで綺麗な木肌の製材品が製造できる。これにより、挽きっぱなしの状態で防腐処理用の土台等を出荷でき、手間を抑えた製品生産が可能となっている。また、高度な加工技術を活かした賃挽きを受託していることも大きな特長で、高品質な乾燥材を仕入れ精緻に再割する等、手間がかかる特殊加工の依頼にも柔軟に応えている。さらに、原木調達から製材加工、納品までを自社周辺で完結させるコンパクトで機動的な体制を構築し、生産コストを抑えている。

代表的な製品、サービス、設備などは？

主力製品は、ヒノキ正角(土台・柱)で、しずおか優良木材認定工場として、認証製品を出荷している。建築材以外では、富士登山で用いられる「金剛杖」の製造を受託している。ヒノキの33㎜角を、27mm角の狂いのない六面体に加工し、年間約8,000本を出荷している。また、富士山麓で需要が多いキャンプ用の薪材も製造し出荷している。

主な設備は、自社の製材工程の主軸となる丸鋸製材機で、直径30㎝までの原木を製材できるため、小径木の加工を得意としている。また、効率的に材を挽き割るギャングリッパーもあり、細かな加工の注文にも柔軟に対応している。

今後の展望をお聞かせください。

人口減少等に伴う新設住宅着工数の縮小を見据え、「非住宅分野への進出」と「地域の連携強化」による新たな需要開拓を進める。「フジヒノキメイド」のブランド展開を、フジヒノキメイド有限責任事業組合の組合員として協力し推進していくとともに、静岡県や富士市による地域材利用の支援も受けながら、地域のプレカット業者や設計者と連携し、店舗や公共施設といった非住宅分野へ富士ヒノキの活用提案や供給を本格化させていきたい。

提案力を高めるため、最新の技術を持つ外部のクリエイターとも連携している。3次元加工機を所有する建築士と協力し、特殊加工を施したモックアップを制作し、これを展示会やイベントに出展することで、都市部や一般消費者に向けて、富士ヒノキの魅力やデザインの可能性をPRしていく。

自社の加工技術と地域の連携を軸に、時代に即した新たな「富士ヒノキの価値」を次世代へ向けて創出していきたい。



金剛杖の加工など、細かい作業で活躍するモルダー



富士ヒノキのモックアップ



地域の連携による富士ヒノキの新たな事業展開を語る
勝又重忠　代表取締役(左)
勝又重政　取締役会長(右)

取材日:令和8年9月2日

富士宮木材協同組合
株式会社ランバーリング・カツマタ
代表取締役　勝又重忠
静岡県富士市大淵字小河窪9260
TEL. 0545-37-1233　FAX. 0545-37-1234
Mail : katsumata.l@orchid.plala.or.jp

創業：1947年　設立：1997年
事業内容：製材業
従業員数：4人
年間売上高：1億円（2025年度）
許認可等：しずおか優良木材認定工場、SGEC-COC認証

発行:静岡県木材協同組合連合会